

JIM CREGAN



PAT METHENY

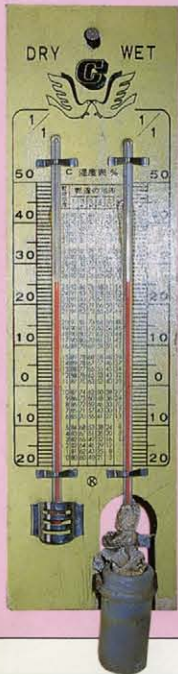


MICKY MOODY

セレクトされ、磨きぬかれた発展。

エアールの最高グレード、AR4000は、選りぬかれた材料を使用します。スベックや重宝を重ねても表現できない、人為的な執着心もまた、すぐれた製品には欠かせない要素。受注後に生産を開始するという種類のオーダーメイド・スタイルも二

理解下さい。
マテリアルとしてのボウは、マホガニー・テールピース・メイプル・フラス・マホガニーの2ピース・コンキエーション・ネットと、3ピース・イコライザー・EOIIを搭載した、ロウ・インピーダンス・PUシステム。伝統と先進性の程良いミクスドアップのカチをみるごときです。
LOZZヒックアップは、ハイブリッドICを用いたアクティブ・サーキットを内蔵し、特性上最もすぐれた、最小限のコイルターンから得られる信号をハックアップし、ロウインピーダンスに変換して送り出す方式によるPUシステム。高域でリスブンスの上とタイオックレンジの拡大、さらに、ノイズの軽減に役立ちます。ギターとアンプのケーブル中の高域のロスとノイズはもろんのこと、どのボリュームポジションでも、トーンが変化しないという、大きなメリットもたらします。
EOIIシステムは、トレブルとミドルの2ポイントでイコライジングが行なえるイコライジングシステム。各々、6KHZあたりを±20dB、600HZあたりを±13dBまでブーストカット、コントロールには、センターリットを設定していますから、簡単に、フラットポジションが得られます。また、可変周波数も入り込ませ、従来のグラフィック・イコライザーのなもではなく、あくまでギターの一部として生産にマッチする性格をもつたものです。円熟のエアール。益々ギターリストの生活を豊かに、孤獨の哲学に支えら



◆ギター、特にセミアコースティックブリには欠くことのできないエアークンデション計。温度計とギターを取り合わせも、真に必然性が大きい。

ボディ材に、とっときのスノビズム。 BOOB ROOM.



JOHN ABERCROMBIE



BOB WEIR (GREATFUL DEAD)



◆LR10の骨組みとなる隠層センター・ブロック。何となくギターのにじみつつあります。

お解りのように、現在のものは、ネックがボディ裏りにセットされています。初期の頃は、ギターの振動特性の解析を行なえる器材とほしく、もっぱら、クラフツメンの「カン」を経験をたよりにしていた部分で、80年にアイバニーズは、マイクロプロセッサ・テクノロジーを導入した技術を開発し、電子的なテクノロジーで振動解析を開始したのです。これによって、共振周波数、伝搬面積、減衰特性などの相関関係が正確に分折され、ベストコンディションのネックセット位置を決定することが可能になったのです。

世界中で多くのサポーターをもつAR独得のカラーとしたサウンドは、科学されたギター製造テクノロジーがもたらします。

な音づくりに対するフィッテストな、ポルトオンススタイルにはない、多くの特長をもっているといえます。
セットインネック・コントラクションは、ネックとボディを接着した上で、両方をまたぐカタチで、フィンガーボードを張りつける方法。この方法では、ボディとネックが一体化しているだけでなく、指板が直接ボディと接している点から、サウンドクオリティに好影響を与えます。
まず、サステインに対する好影響。音の立ち上がり、レスポンスにすぐれる。パランスのよいトーンを放つ。など、しかし、これは、ただ単純にネックを張りつけばよいというわけでは、無論なく、どのポジションにセットするか問題。これは、ブリッジ・テイルピースの位置に影響を与えます。
オールドタイプのARを二腕いたたと